

令和5年度「硬筆」 シラバス	単位数	2単位	必修・選択	選択(学校設定科目)
	対象学	全学年	使用教科書	学校作成教材による

1 学習の到達目標及び評価方法等

学習到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 文字を正確に、美しくそして能率よく書く能力を育てる。 2 硬筆学習を通して、これを楽しむ態度と感性を磨き、日常の生活に役立つ実用的な書の表現能力をより一層高める。 3 書道検定などに積極的に挑戦し、その取得を目指す。
課題・提出物等	<ol style="list-style-type: none"> 1 課題に応じて作品を提出する。 2 授業中に書いたものは基本的に、試書、添削を受けたもの、清書を問わずすべて提出する。
評価方法	提出作品、その枚数や内容を中心に用具用材の扱いを含めた学習活動への参加の態度などをもとに総合的に評価する。
評価の観点	「関心・意欲・態度」、「提出物(ワークシート)」、「技能(豆テスト)」の3つから評価する。

2 学習計画

学期	月	学 習 内 容	時数	学 習 の ね ら い	備考
前 期	4	硬筆検定4級の実技領域の基礎 ①漢字と仮名 ア 漢字(楷書) イ 平仮名・片仮名	6	<ul style="list-style-type: none"> ・多く用いられる平易な漢字を点筆順、字形を整えて書く。 ・平仮名・片仮名を筆順・字形を整えて正しく書く。 	
	5	②文章 ア 漢字仮名交じり文 ③硬筆書写に関する知識	8	<ul style="list-style-type: none"> ・平易な漢字仮名交じり文を正しく整えて書くことができる。 ・硬筆書写に関する用具・用材(鉛筆、ペン、万年筆、フェルトペン、ボールペン)インキ、用紙などについての一般的な知識、理解をもっている硬筆書写に関する用具・用材などの正しい使用法を知る。 	
	6	硬筆検定3級の実技領域とその内容 ①漢字と仮名 ア 楷書 イ 行書 ウ 平仮名 エ 片仮名	8	<ul style="list-style-type: none"> ・楷書を正しく美しく書くことができる。 ・行書を正しく美しく書くことができる。 ・平仮名・片仮名を正しく美しく書くことができる。 	第1回書写検定
	7	②文章 ア 漢字仮名交じり文 イ 掲示	6	<ul style="list-style-type: none"> ・漢字仮名交じり文を正しくかつ体裁良く書くことができる。 ・簡単な掲示を正しく効果的に書くことができる。 	
	9	硬筆検定3級の理論領域とその内容 ①国語の表記法 ア 常用漢字の字体・音訓・筆順 イ 現代仮名遣い・送り仮名 ウ 符号の使い方	8	<ul style="list-style-type: none"> ・常用漢字の字体、音訓、筆順に関する知識、理解をもっている。 ・現代仮名遣い及び送り仮名の付け方に関する知識、理解をもっている。 ・区切り符号その他の符号に関する知識、理解をもっている。 	
後 期	10	②その他 ア 現代生活と硬筆書写 イ 硬筆書写に関する知識	8	<ul style="list-style-type: none"> ・現代生活と硬筆(毛筆、謄写版を除く広義の硬筆による書写についての知識、理解をもっている。 ・硬筆書写に関する用具・用材などについての一般的な知識、理解をもっている。 	

後	11	硬筆検定2級の実技領域とその内容 ①漢字と仮名 ア 楷書 イ 行書 ウ 平仮名 エ 片仮名	8	<ul style="list-style-type: none"> ・楷書を正しく美しく書くことができる。 ・行書を正しく美しく書くことができる。 ・平仮名・片仮名を正しく美しく書くことができる。 	第2回 書写検定
	12	②古典の臨書 ア 楷書 イ 行書 ウ 草書 エ 仮名	6	<ul style="list-style-type: none"> ・楷書、行書及び草書を正しく美しく臨書することができる。 ・仮名を正しく美しく臨書することができる。 	
	1	③文章及び文書 ア 漢字仮名交じり文 イ 掲示 ウ 自由作品（半紙、色紙、短冊、半切）	6	<ul style="list-style-type: none"> ・漢字仮名交じり文を目的に適した書体で正しく美しくかつ全体を効果的に書くことができる。 ・掲示を体裁良く書くことができる。 ・半紙、色紙、短冊及び画仙紙の半切に体裁良く書くことができる。 	第3回 書写検定
期	2	硬筆検定2級の理論領域とその内容 ①国語の表記法 ア 3級の領域 イ 常用漢字表に掲げられていない漢字の字体（旧字体・書写体）、音訓及び筆順指導の手引き」に示されている以外の筆順 ウ 現代仮名遣い、送り仮名 エ 符号の使い方	8	<ul style="list-style-type: none"> ・3級に示されている領域の内容を更に確に習得、理解している。 ・常用漢字表に掲げられていない漢字の字体（いわゆる旧字体・書写体）、音訓及び筆に関する知識、理解をもっている。 ・現代仮名遣い及び送り仮名の付け方に関する知識、理解をもっている。 ・区切り符号その他の符号に関する知識、理解をもっている。 	
	3	②その他 ア 現代生活と文字 イ 硬筆書写に関する知識	6	<ul style="list-style-type: none"> ・現代生活（一般の生活及び実務）と文字との関係についての知識、理解をもっている。 ・硬筆書写に関する用具・用材などについて3級より更に高度の知識、理解をもっている。 	

確かな学力を身に付けるためのアドバイス	<ul style="list-style-type: none"> ・硬筆の学習においてはまずよく見て丁寧に書くことが大切です。「文字を正しく美しく書こう」という気持ちで向かいましょう。 ・技法の習得にあたってはただ練習の枚数を重ねるのではなく自分が解決すべき課題や問題点を明確にしておくことが大切です。
授業を受けるにあたって守ってほしい事項	<ul style="list-style-type: none"> ・授業はチャイムと同時に始めますので、用具を準備し着席を完了させて下さい。 ・用具は個人の所有の物、学校の備品ともに大切に使いましょう。

令和5年度	単位数	2単位	必修・選択	選択
「書の表現(応用)」シラバス	対象学年	3年次	使用教科書	学校作成教材による

1 学習の到達目標および評価方法等

学習到達目標	<p>1 書道における幅広い創造的な活動を通して、生涯にわたり書を愛好する心情広い視野から書の文化や伝統を尊重する態度を育てる。</p> <p>2 書を理解しこれを楽しむ態度を通して感性を磨き、日常生活に役立つ実用的な書の表現能力をより一層高める。</p> <p>3 書道検定などに積極的に挑戦し、その取得を目指す。</p>
課題・提出物等	<p>1 毎時提示された課題(作品等)を提出する。</p> <p>2 単元の終わりには、学習した課題の中から課題の一つを選択し、成果作品として作品を完成させる。</p>
評価方法	<p>1 提出作品等。練習枚数や内容を中心に用具用材の扱いを含めた学習活動への参加の態度などをもとに総合的に評価する。</p> <p>2 発言、本読み、板書など積極的な態度には加点する。</p>
評価の観点	「関心・意欲・態度」、「書表現の構想と工夫」、「創造的な書表現の技能」、「鑑賞の能力」の4つの観点で評価する。

2 学習計画

学期	月	学習内容	時数	学習のねらい	備考
前	4	毛筆検定2・3級の実技領域とその内容 ①漢字と仮名 ア 楷書 イ 行書 ウ 平仮名 エ 片仮名	6	<ul style="list-style-type: none"> 楷書を正しく美しく書くことができる。 行書を正しく美しく書くことができる。 平仮名・片仮名を正しく美しく書くことができる。 	
	5	②文章 ア 漢字仮名交じり文 イ 掲示	8	<ul style="list-style-type: none"> 漢字仮名交じり文を正しくかつ体裁良く書くことができる。 簡単な掲示を正しく効果的に書くことができる。 	
期	6	毛筆検定2・3級の理論領域とその内容 ①国語の表記法 ア 常用漢字の字体・音訓・筆順 イ 現代仮名遣い・送り仮名 ウ 符号の使い方 ②その他 ア 草書を読む イ 毛筆書写に関する知識	8	<ul style="list-style-type: none"> 常用漢字の字体、音訓、筆順に関する知識、理解をもっている。 現代仮名遣い及び送り仮名の付け方に関する知識、理解をもっている。 区切り符号その他の符号に関する知識、理解をもっている。 よく用いられる平易な草書を文の中で読むことができる。 毛筆書写に関する用具・用材(筆・墨・硯・紙)などについての一般的な知識、理解をもっている。 	第1回書写検定
	7	古典の臨書 ア 楷書 イ 行書 ウ 草書 エ 仮名	6	<ul style="list-style-type: none"> 楷書、行書及び草書を正しく美しく臨書することができる。 仮名を正しく美しく臨書することができる。 	
	9	実用の書に根ざす書活動 ①篆刻 ②刻字	8	<ul style="list-style-type: none"> 姓名印を刻し創作作品に押印します。 朱文印を刻します。 刻字により書作品を作ります。 (1) 書稿を作成する。 (2) 書稿に薄紙をのせ籠字をとる。 (3) 籠字を板に糊付けする。またはカーボン紙で写す。 (4) 彫刻刀で刻る。 (5) 下地と文字部着色する。 	

後	10	③ろうけつ染め、マーブリング ④命名、賞状	8	・墨流しを体験する。 ・命名や賞状といった細字の分野にも挑戦する。	
	11	⑤仮名の書 「百人一首でカルタを作ろう」	8	仮名の成立と種類について学習します。 (1) いろは歌の学習 (2) 連綿や散らし書き (3) カルタの制作	第2回 書写検定
	12	⑥年賀状	6	・表面が体裁良く書くことができる。 ・十干十二支について理解できる。 ・裏面にはどのような文章やデザインが適しているのかを学習します。	
期	1	漢字仮名交じりの書における 「作品制作」 ①素材の生かし方 「文字の大小・太細」 「墨の濃淡・潤濁」 「配置の工夫」	6	・学習した漢字または仮名の古典をもとに漢字仮名交じりの書の創作を行います。 ・その前に、それぞれの素材をどう工夫することで、充実した作品が作れるのかを学習します。	第3回 書写検定
	2	②作品制作	8	次のような手順を経て行います。 (1) 詩文の選定 (2) 表現意図の明確化 (3) 表現法の検討 ・作品の形式 ・用具・用材 ・用筆 ・構成 (4) 草稿の作成 (5) 試書——推敲——仕上げ 完成した作品について互いに鑑賞し文章にまとめ発表します。	
	3	③裏打ち、表装	6	自分が制作した作品を自分の手で裏打ちし、パネルに表装します。	

確かな学力を身に付けるためのアドバイス	<ul style="list-style-type: none"> ・書道の学習においてはまずよく見るのが大切です。自らの感性に基づき対象となる作品に素直な気持ちで向かいましょう。 ・得られた感想は何に由来するものか、用具・用材、構成といったさまざまな要素について考え分析する姿勢が大切です。 ・技法の習得にあたってはただ練習の枚数を重ねるのではなく自分が解決すべき課題や問題点を明確にしておくことが大切です。 ・鑑賞においては感じたことを的確に表現する自分自身の言葉を捜していきましょう。
授業を受けるにあたって守ってほしい事項	<ul style="list-style-type: none"> ・授業はチャイムと同時に始めますので、用具を準備し着席を完了させて下さい。 ・用具は個人の所有の物、学校の備品ともに大切に使いましょう。特に、筆と硯はきれいに洗いましょう。

令和5年度	単位数	2単位	必修・選択	選択(学校設定科目)
「書の表現(基礎)」シラバス	対象学年	3年次	使用教科書	学校作成教材による

1 学習の到達目標および評価方法等

学習到達目標	<p>1 書道における幅広い創造的な活動を通して、生涯にわたり書を愛好する心情広い視野から書の文化や伝統を尊重する態度を育てる。</p> <p>2 書を理解しこれを楽しむ態度を通して感性を磨き、日常の生活に役立つ実用的な書の表現能力をより一層高める。</p> <p>3 書道検定などに積極的に挑戦し、その取得を目指す。</p>
課題・提出物等	<p>1 毎時提示された課題(作品等)を提出する。</p> <p>2 単元の終わりには、学習した課題の中から課題の一つを選択し、成果作品として作品を完成させる。</p>
評価方法	<p>1 提出作品等。練習枚数や内容を中心に用具用材の扱いを含めた学習活動への参加の態度などをもとに総合的に評価する。</p> <p>2 発言、本読み、板書など積極的な態度には加点する。</p>
評価の観点	「関心・意欲・態度」、「書表現の構想と工夫」、「創造的な書表現の技能」、「鑑賞の能力」の4つの観点で評価する。

2 学習計画

学期	月	学習内容	教材名・古典名	学習のねらい	備考
前期	4	・オリエンテーション ・漢字の書 ① 楷書を学ぼう	九成宮醴泉銘 孔子廟堂碑	・授業の心得やマナーの確認 ・楷書の古典の書体や書風と用筆・運筆との関わりを学び、様々な古典の表現方法を学ぶ。	
	5	・漢字の書 ② 行書を学ぼう	蘭亭序 蜀素帖	・行書の古典の書体や書風と用筆・運筆との関わりを学び、線質、字形や構成を生かした表現方法を学ぶ。	
	6	・漢字の書 ① 隷書を学ぼう	曹全碑 史晨碑	・隷書の古典の書体や書風と用筆・運筆の関わりを学び、書体特有の字形や線質の特徴を学ぶ。	
	7	・構成、大作への挑戦 ① 楷・行・隷を大きい作品にまとめよう		・漢字の書の幅広い表現の活動を通して、作品構成、表現方法に取り組む。	
	9	・漢字の書 ① 草書を学ぼう	十七帖 書譜	・草書の古典の書体や書風と用筆・運筆の関わりを学び、より個性的で多様な草書の表現を鑑賞し、理解を深める。	
後期	10	・毛筆検定2級の実技領域とその内容 ① 漢字と仮名 ア 楷書・行書 イ 平仮名・片仮名		・楷書を正しく美しく書くことができる。 ・行書を正しく美しく書くことができる。 ・平仮名・片仮名を正しく美しく書くことができる。	
	11	・漢字仮名交じりの書 ① 漢字を生かした表現		・紙や墨の種類によって、表現に変化をつけられることを理解する。 ・自分の表現意図に合った効果的な作品構成を模索する。	第2回 書写検定
	12	・創作 ① 漢字仮名交じりを生かした創作 ② 年賀状作成		・創作の手順に従い、漢字の書や漢字仮名交じりの書で学んだ技法を生かして創作する。 ・葉書の書式を理解し、自分の創意を生かして書く。	

1	<ul style="list-style-type: none"> 仮名の書 ① 平仮名の成り立ち ② 連綿 ③ 構成 	高野切三種 三色紙	<ul style="list-style-type: none"> 仮名の基本的な線、運筆について理解する。 平仮名の成り立ちを理解する。 仮名を書く際の特徴である、連綿について理解する。 	第3回 書写検定
2	<ul style="list-style-type: none"> 篆刻・刻字 		<ul style="list-style-type: none"> 篆刻、刻字で使用する用具・用材や創作の手順について理解し、その仕方について学習する。 	
3	<ul style="list-style-type: none"> 実用の書 ① 身近にある実用的な作品に着目しよう。 		<ul style="list-style-type: none"> 身近にある書作品に着目し、生活の中に書があることを理解する。 	

<p>確かな学力を身に付けるためのアドバイス</p>	<ul style="list-style-type: none"> 書道の学習においてはまずよく見ることが大切です。自らの感性に基づき対象となる作品に素直な気持ちで向かいましょう。 得られた感想は何に由来するものか、用具・用材、構成といったさまざまな要素について考え分析する姿勢が大切です。 技法の習得にあたってはただ練習の枚数を重ねるのではなく自分が解決すべき課題や問題点を明確にしておくことが大切です。 鑑賞においては感じたことを的確に表現する自分自身の言葉を捜していきましょう。
<p>授業を受けるにあたって守ってほしい事項</p>	<ul style="list-style-type: none"> 授業はチャイムと同時に始めますので、用具を準備し着席を完了させて下さい。 用具は個人の所有の物、学校の備品ともに大切に使いましょう。特に、筆と硯はきれいに洗いましょう。

令和5年度 芸術科 「書の表現(基礎)」シラバス	単位数	2単位	必修・選択	選択(学校設定科目)
	対象学年	2年次	使用教科書	学校作成教材による

1 学習目標

1 書道における幅広い知識や創造的な活動を通して、生涯にわたり書を愛好する心情広い視野から書の文化や伝統を尊重する態度を育てる。

2 学習計画

学期	月	学 習 内 容	教材名・古典名	学 習 の ね ら い	備考
前期	4	・オリエンテーション ・漢字の書 ① 楷書を学ぼう	九成宮醜泉銘 孔子廟堂碑	・授業の心得やマナーの確認 ・楷書の古典の書体や書風と用筆・運筆との関わりを学び、様々な古典の表現方法を学ぶ。	
	5	・漢字の書 ② 行書を学ぼう	蘭亭序 蜀素帖	・行書の古典の書体や書風と用筆・運筆との関わりを学び、線質、字形や構成を生かした表現方法を学ぶ。	
	6	・漢字の書 ① 隷書を学ぼう	曹全碑 史晨碑	・隷書の古典の書体や書風と用筆・運筆の関わりを学び、書体特有の字形や線質の特徴を学ぶ。	
	7	・構成、大作への挑戦 ① 楷・行・隷を大きい作品にまとめよう		・漢字の書の幅広い表現の活動を通して、作品構成、表現方法に取り組む。	
	9	・漢字の書 ① 草書を学ぼう	十七帖 書譜	・草書の古典の書体や書風と用筆・運筆の関わりを学び、より个性的で多様な草書の表現を鑑賞し、理解を深める。	
後期	10	・毛筆検定2級の実技領域とその内容 ① 漢字と仮名 ア 楷書・行書 イ 平仮名・片仮名		・楷書を正しく美しく書くことができる。 ・行書を正しく美しく書くことができる。 ・平仮名・片仮名を正しく美しく書くことができる。	
	11	・漢字仮名交じりの書 ① 漢字を生かした表現		・紙や墨の種類によって、表現に変化をつけられることを理解する。 ・自分の表現意図に合った効果的な作品構成を模索する。	第2回 書写検定
	12	・創作 ① 漢字仮名交じりを生かした創作 ② 年賀状作成		・創作の手順に従い、漢字の書や漢字仮名交じりの書で学んだ技法を生かして創作する。 ・葉書の書式を理解し、自分の創意を生かして書く。	
	1	・仮名の書 ① 平仮名の成り立ち ② 連綿 ③ 構成	高野切三種 三色紙	・仮名の基本的な線、運筆について理解する。 ・平仮名の成り立ちを理解する。 ・仮名を書く際の特徴である、連綿について理解する。	第3回 書写検定
	2	・篆刻・刻字		・篆刻、刻字で使用する用具・用材や創作の手順について理解し、その仕方について学習する。	
	3	・実用の書 ① 身近にある実用的な作品に着目しよう。		・身近にある書作品に着目し、生活の中に書があることを理解する。	

<p>確かな学力を身に付けるためのアドバイス</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・書道の学習においてはまずよく見ることが大切です。自らの感性に基づき対象となる作品に素直な気持ちで向かいましょう。 ・得られた感想は何に由来するものか、用具・用材、構成といったさまざまな要素について考え分析する姿勢が大切です。 ・技法の習得にあたってはただ練習の枚数を重ねるのではなく自分が解決すべき課題や問題点を明確にしておくことが大切です。 ・鑑賞においては感じたことを的確に表現する自分自身の言葉を捜していきましょう。
<p>授業を受けるにあたって守ってほしい事項</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・授業はチャイムと同時に始めますので、用具を準備し着席を完了させて下さい。 ・用具は個人の所有の物、学校の備品ともに大切に使いましょう。特に、筆と硯はきれいに洗いましょう。

3 評価の観点及び評価の方法

評価は3つの観点から行い、学習の取組状況や進捗状況、学習プリント、授業態度を総合的に判断して評価する。

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>古典の書体や書風と用筆・運筆の関わりを理解し、日本及び中国等の文字と書の伝統と文化について理解している。【知識】</p> <p>書の伝統に基づき、基本的な用筆。運筆の技能、線質、字形や構成を生かし、作品を効果的に表現するための技能を身につけ、表している。【技能】</p>	<p>書のよさや美しさを感じ、意図に基づいた表現を工夫し、生活や社会における書の効用について考え、書の美と味わいとらえている。</p>	<p>主体的に書の表現及び鑑賞の幅広い活動に取り組もうとしている。</p>

令和5年度「書道I」シラバス	単位数	2単位	必修・選択	必修選択
	使用教科書		書I 38 光村	書I 705

1 講座のねらい（目標）

書道の幅広い活動をとおして、書に関する見方・考え方はたらかせ、生活や社会の中の文字や書、書の伝統と文化と幅広く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 書の表現の方法や形式、多様性などについて幅広く理解するとともに、書写能力の向上を図り、書の伝統に基づき、効果的に表現するための基礎的な技能を身につけるようにする。（「知識及び技能」の習得）
- (2) 書のよさや美しさを感じ、意図に基づいて構想し表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書的美を味わいとらえたりすることができるようにする。（「思考力、判断力、表現力等」の育成）
- (3) 主体的に書の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり書を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、書の伝統と文化に親しみ、書をとおして心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。（「学びに向かう力、人間性等」の涵養）

2 学習計画

単元名・教材名		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
漢字の書	巻頭 書道で学習すること 書写から書道へ	●知識 共通事項 書道の分野や書道で学習すること、小・中学校の国語科書写で学習した内容を理解している。		芸術科書道の学習に関心を持ち、書道で学習することや、小・中学校の国語科書写で学習した内容に関心を持ち、主体的に取り組んでいこうとする態度を養っている。
	1. はじめに 漢字の変遷とさまざまな書体	●知識 共通事項 【鑑賞】日本及び中国等の文字と書の伝統と文化、漢字の書体の変遷、各書体に特有の字形や線質の特徴について理解している。	【鑑賞】漢字の古典の価値と根拠について考え、書のよさや美しさを味わって捉えている。	【鑑賞】漢字の書体の変遷や、その背景にある歴史や文化に関心を持ち、主体的に漢字の書の幅広い鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。
	2. 文字の造形を学ぶ【楷書】 あなたは、どの楷書が好き？ 唐の四大家に学ぶ楷書の基本 孔子廟堂碑 九成宮醴泉銘 雁塔聖教序 顔氏家廟碑 鑑賞を始めよう	●知識 共通事項 【表現】楷書の古典の書体や書風と用筆・運筆との関わりについて理解している。 【鑑賞】線質、字形、構成等の要素と表現効果や風趣との関わり、日本及び中国等の文字と書の伝統と文化について理解している。 ●技能 楷書の古典に基づく基本的な用筆・運筆の技能、線質、字形や構成を生かした表現を身につけている。	【表現】楷書の古典の書体や書風に即した用筆・運筆、字形、全体の構成について構想し工夫している。 【鑑賞】楷書の古典の価値とその根拠について考え、書のよさや美しさを味わって捉えている。	【表現】主体的に漢字の書の幅広い表現の学習活動に取り組もうとしている。 【鑑賞】主体的に漢字の書の幅広い鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。
2. 文字の造形を学ぶ【楷書】 牛橛造像記 卷末折込「龍門二十品」 鄭義下碑 【コラム】「摩崖」の書 隅寺心經	●知識 共通事項 【表現】楷書の古典の書体や書風と用筆・運筆との関わりについて理解している。 【鑑賞】線質、字形、構成等の要素と表現効果や風趣との関わり、日本及び中国等の文字と書の伝統と文化について理解している。 ●技能 楷書の古典に基づく基本的な用筆・運筆の技能、線質、字形や構成を生かした表現を身につけている。	【表現】楷書の古典の書体や書風に即した用筆・運筆、字形、全体の構成について構想し工夫している。 【鑑賞】楷書の古典の価値とその根拠について考え、書のよさや美しさを味わって捉えている。	【表現】主体的に漢字の書の幅広い表現の学習活動に取り組もうとしている。 【鑑賞】主体的に漢字の書の幅広い鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。	

	<p>2. 文字の造形を学ぶ【行書】 蘭亭序 蘭亭序とは受け継がれてきた蘭亭序 卷末折込「蘭亭序」 [コラム]印でわかる古典の真価 争坐位文稿 蜀素帖 風信帖 卷末折込「風信帖」 三筆・三跡の書</p>	<p>●知識 共通事項 【表現】行書の古典の書体や書風と用筆・運筆との関わりについて理解している。 【鑑賞】線質、字形、構成等の要素と表現効果や風趣との関わり、日本及び中国等の文字と書の伝統と文化、各書体に特有の字形や線質の特徴を理解している。 ●技能 行書の古典に基づく基本的な用筆・運筆の技能、線質、字形や構成を生かした表現を身につけている。</p>	<p>【表現】行書の古典の書体や書風に即した用筆・運筆、字形、全体の構成について構想し工夫している。 【鑑賞】行書の古典の価値とその根拠について考え、書の高さや美しさを味わって捉えている。</p>	<p>【表現】主体的に漢字の書の幅広い表現の学習活動に取り組もうとしている。 【鑑賞】主体的に漢字の書の幅広い鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。</p>
	<p>2. 文字の造形を学ぶ【草書／隷書／篆書】 真草千字文 曹全碑 泰山刻石</p>	<p>●知識 共通事項 【表現】草書・隷書・篆書の古典の書体や書風と用筆・運筆との関わりについて理解している。 【鑑賞】線質、字形、構成等の要素と表現効果や風趣との関わり、日本及び中国等の文字と書の伝統と文化、各書体に特有の字形や線質の特徴を理解している。 ●技能 草書・隷書・篆書の古典に基づく基本的な用筆・運筆の技能、線質、字形や構成を生かした表現を身につけている。</p>	<p>【表現】草書・隷書・篆書の古典の書体や書風に即した用筆・運筆、字形、全体の構成について構想し工夫している。 【鑑賞】草書・隷書・篆書の古典の価値とその根拠について考え、書の高さや美しさを味わって捉えている。</p>	<p>【表現】主体的に漢字の書の幅広い表現の学習活動に取り組もうとしている。 【鑑賞】主体的に漢字の書の幅広い鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。</p>
漢字の書	<p>3. 創作する 古典を生かした創作 創作例 [コラム]さまざま まな書の姿</p>	<p>●知識 共通事項 【表現】用具・用材の特徴と表現効果との関わり、書体や書風と用筆・運筆との関わりについて理解している。 【鑑賞】線質、字形、構成等の要素と表現効果や風趣との関わり、各書体に特有の字形や線質の特徴を理解している。 ●技能 漢字の古典に基づく基本的な用筆・運筆の技能、古典の線質、字形や構成を生かした表現の技能を身につけている。</p>	<p>【表現】漢字の古典の書体や書風に即した用筆・運筆、字形、全体の構成について構想し工夫している。 【鑑賞】漢字の古典や創作作品の価値とその根拠について考え、書の高さや美しさを味わって捉えている。</p>	<p>【表現】主体的に漢字の書の幅広い表現の学習活動に取り組もうとしている。 【鑑賞】主体的に漢字の書の幅広い鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。</p>
仮名の書	<p>1. はじめに 仮名の成立と種類 2. 文字の造形を学ぶ 仮名の筆使い 平仮名 変体仮名 蓬萊切</p>	<p>●知識 共通事項 【表現】線質や書風と用筆・運筆との関わりについて理解している。 【鑑賞】線質、字形、構成等の要素と表現効果や風趣との関わり、日本の文字と書の伝統と文化、仮名の成立、書の伝統的な鑑賞の方法や形態について理解している。 ●技能 仮名の古筆に基づく基本的な用筆・運筆の技能、線質や字形を生かした表現をするための技能を身につけている。</p>	<p>【表現】仮名の古筆や書風に即した用筆・運筆、字形、全体の構成について構想し工夫している。 【鑑賞】仮名の古筆の価値とその根拠について考え、書の高さや美しさを味わって捉えている。</p>	<p>【表現】主体的に仮名の書の幅広い表現の学習活動に取り組もうとしている。 【鑑賞】主体的に仮名の書の幅広い鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。</p>

	<p>2. 文字の造形を学ぶ 高野切第三種 表現を比べよう 関戸本古今和歌集／元永本古今和歌集 受け継がれる仮名の書</p>	<p>●知識 共通事項 【表現】線質や書風と用筆・運筆との関わりについて理解している。 【鑑賞】線質、字形、構成等の要素と表現効果や風趣との関わり、日本の文字と書の伝統と文化、書の伝統的な鑑賞の方法や形態について理解している。</p> <p>●技能 仮名の古筆に基づく基本的な用筆・運筆の技能、連綿と単体、線質、字形を生かした表現をするための技能を身につけている。</p>	<p>【表現】仮名の古筆の書風に即した用筆・運筆、字形、全体の構成について構想し工夫している。 【鑑賞】仮名の古筆の価値とその根拠について考え、書の高さや美しさを味わって捉えている。</p>	<p>【表現】主体的に仮名の書の幅広い表現の学習活動に取り組もうとしている。 【鑑賞】主体的に仮名の書の幅広い鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。</p>
	<p>3. 構成を学ぶ 継色紙 寸松庵色紙 升色紙 さまざまな構成方法</p> <p>4. 創作する 古筆を生かした創作 創作例 [コラム]美しい料紙の世界</p>	<p>●知識 共通事項 【表現】用具・用材の特徴と表現効果との関わり、線質や書風と用筆・運筆との関わりについて理解している。 【鑑賞】線質、字形、構成等の要素と表現効果や風趣との関わり、日本の文字と書の伝統と文化、書の伝統的な鑑賞の方法や形態について理解している。</p> <p>●技能 仮名の古筆に基づく基本的な用筆・運筆の技能、連綿と単体、線質や字形を生かした表現をするための技能を身につけている。</p>	<p>【表現】仮名の古筆の書風に即した用筆・運筆、字形、全体の構成について構想し工夫している。 【鑑賞】仮名の古筆や創作作品の価値とその根拠について考え、書の高さや美しさを味わって捉えている。</p>	<p>【表現】主体的に仮名の書の幅広い表現の学習活動に取り組もうとしている。 【鑑賞】主体的に仮名の書の幅広い鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。</p>
<p>漢字仮名交じりの書</p>	<p>1. はじめに 漢字仮名交じりの書とは 心に響く言葉を書く</p> <p>2. 創作する 好きな言葉を書こう あなたは、どの書が好き？ 表現の幅を広げよう 文士の書を見に行こう [コラム]文士の署名 漢字仮名交じり文と日本語表記</p>	<p>●知識 共通事項 【表現】用具・用材の特徴と表現効果との関わり、名筆や現代の書の表現と用筆・運筆との関わりについて理解している。 【鑑賞】線質、字形、構成等の要素と表現効果や風趣との関わり、漢字仮名交じり文の成立について理解している。</p> <p>●技能 目的や用途に即した効果的な表現、漢字と仮名の調和した線質による表現の技能を身につけている。</p>	<p>【表現】漢字と仮名の調和した字形、文字の大きさ、全体の構成、目的や用途に即した表現形式、意図に基づいた表現、名筆を生かした表現や現代に生きる表現について構想し工夫している。 【鑑賞】創造された作品の価値とその根拠、生活や社会における書の効用について考え、書の高さや美しさを味わって捉えている。</p>	<p>【表現】主体的に漢字仮名交じりの書の幅広い表現の学習活動に取り組もうとしている。 【鑑賞】主体的に漢字仮名交じりの書の幅広い鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。</p>
<p>篆刻 刻字</p>		<p>●知識 共通事項 【表現】用具・用材の特徴と表現効果との関わり、書体や書風と用筆・運筆との関わりについて理解している。 【鑑賞】線質、字形、構成等の要素と表現効果や風趣との関わり、各書体に特有の字形や線質の特徴を理解している。</p> <p>●技能 漢字の書の古典に基づく基本的な用筆・運筆の技能、古典の線質、字形や構成を生かした表現の技能を身につけている。</p>	<p>【表現】漢字の書の古典の書体や書風に即した用筆・運筆、字形、全体の構成について構想し工夫している。 【鑑賞】漢字の書の古典の価値とその根拠について考え、書の高さや美しさを味わって捉えている。</p>	<p>【表現】主体的に篆刻や刻字の幅広い表現の学習活動に取り組もうとしている。 【鑑賞】主体的に篆刻や刻字の幅広い鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。</p>

資料	書写・書道の基本 [コラム]拓本の採り方 生活の中の書 書道事典 巻末折込「書道史略年表」	<p>●知識 共通事項 【表現】用具・用材の特徴と表現効果との関わりについて理解している。</p> <p>【鑑賞】日本及び中国等の文字と書の伝統と文化、書の伝統的な鑑賞の方法や形態について理解している。</p> <p>●技能 書写能力を向上させるとともに、目的や用途に即した効果的な表現の技能を身につけている。</p>	<p>【表現】意図に基づいた表現について構想し工夫している。</p> <p>【鑑賞】生活や社会における書の効用について考え、書のよさや美しさを味わって捉えている。</p>	<p>【表現】主体的に幅広い表現の学習活動に取り組もうとしている。</p> <p>【鑑賞】主体的に幅広い鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。</p>
----	---	---	---	---

3 評価の観点及び評価の方法

評価は3つの観点から行い、学習の取組状況や進度状況、学習プリント、授業態度を総合的に判断して評価する。

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>書の表現の方法や形式、書表現の多様性について幅広く理解している。【知識】</p> <p>書写能力を向上させるとともに、書の伝統に基づき、作品を効果的に表現するための基礎的な技能を身につけ、表している。【技能】</p>	<p>書のよさや美しさを感じ、意図に基づいて構想し表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書の美を味わいとらえたりしている。</p>	<p>主体的に書の表現及び鑑賞の幅広い活動に取り組もうとしている。</p>

令和5年度「書道Ⅱ」シラバス	単位数	2単位	必修・選択	選択
	使用教科書		書Ⅱ 38 光村	書Ⅱ 308

1 講座のねらい(目標)

書道の創造的な諸活動を通して、書に関する見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の文字や書、書の伝統と文化と深く関わる資質・納涼を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 書の表現法補や形式、多様性などについて理解を深めるとともに、書の伝統に基づき、効果的に表現するための技能を身につけるようにする。
- (2) 書の良さや美しさを感じ、意図に基づいて創造的に構想し個性豊かに表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書の美を味わい深く捉えたりすることができるようにする。
- (3) 主体的に書の創造的な諸活動に取り組み、生涯にわたり書を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、書の伝統と文化に親しみ、書を通して心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。

2 学習計画

3 評価の観点、及び評価の方法

評価は3つの観点から行い、学習の取組状況や進捗状況、学習プリント、授業態度を総合的に判断して評価する。

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>書の表現の方法や形式、書表現の多様性について幅広く理解している。【知識】</p> <p>書写能力を向上させるとともに、書の伝統に基づき、作品を効果的に表現するための基礎的な技能を身につけ、表している。【技能】</p>	<p>書のよさや美しさを感じ、意図に基づいて構想し表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書の美を味わいとらえたりしている。</p>	<p>主体的に書の表現及び鑑賞の幅広い活動に取り組もうとしている。</p>

令和5年度「書道Ⅲ」シラバス	単位数	2単位	必修・選択	選択
	使用教科書		書Ⅲ 38	光村 書Ⅱ 305

1 学習の到達目標および評価方法等

学習到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 書道における表現と鑑賞の幅広い活動を通して、書を愛好する心情を育てる。 書を楽しむ態度を通して感性を豊かにし、様々な場面に対応する書写能力を高める。 1と2の学習を通して、自己を主体的に表現する能力と書の美しさを感じ取る鑑賞の基礎的な能力を伸ばす。
課題・提出物等	<ol style="list-style-type: none"> 毎時提示された課題(作品等)を提出する。 単元の終わりには、学習した課題の中から課題を一つ選択し、成果作品として作品を完成させる。
評価方法	<ol style="list-style-type: none"> 提出作品等。練習枚数や内容を中心に用具用材の扱いを含めた学習活動への参加の態度などをもとに総合的に評価する。 提出作品については、「漢字仮名交じりの書」においては意図した表現に近づくことが出来たか、「漢字の書」においては対象となる古典の特徴を表現できたか、「仮名の書」においては線の特徴を理解できたか等が評価の基準となる。 発言、本読み、板書など積極的な参加の態度には加点する。
評価の観点	「関心・意欲・態度」、「書表現の構想と工夫」、「創造的な書表現の技能」、「鑑賞の能力」の4つの観点で評価する。

2 評価の観点、内容及び評価方法

評価の観点及び内容	評価方法	
関心・意欲・態度	<ul style="list-style-type: none"> 書を愛好し、古典の学習を通して書の文化や伝統についての理解を深めようとしているか。 漢字の書、仮名の書、漢字仮名交じりの書の学習を通して、意欲的、主体的に表現や鑑賞の活動を行い、その喜びを味わおうとしているか。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習活動への参加の仕方や態度 「ワークシート」の記入状況 提出作品
書表現の構想と工夫	<ul style="list-style-type: none"> 感性を高め、漢字仮名交じりの書・漢字の書・仮名の書の学習を通して個性豊かな能力を伸ばし、創造的な表現を工夫しているか。 	<ul style="list-style-type: none"> 提出作品 「ワークシート」の記入状況
創造的な書表現の技能	<ul style="list-style-type: none"> 漢字の書・仮名の書・漢字仮名交じりの書において個性豊かな表現をするために、幅広い表現理論と技能を身につけているか。 	<ul style="list-style-type: none"> 提出作品 作品ファイル 「ワークシート」の記入状況
鑑賞の能力	<ul style="list-style-type: none"> 古典の学習を通して書の歴史や文化について理解し、鑑賞の活動の中で書の美を分析的、総合的に捉え、そのよさや美しさを味わっているか。 	<ul style="list-style-type: none"> 「ワークシート」の記入状況

3 学習計画
(1) 学習計画等

月	時数	学習内容	学習のねらい	備考
4	6	1 漢字の書の学習 半紙への臨書 画仙紙への臨書	<ul style="list-style-type: none"> ・各自が選択した古典について範囲を決め半紙に4字または6字の臨書をします。 ・小筆での原寸臨書をとおして全体の雰囲気把握します。 ・臨書作品として字数や配置、落款等の位置を含めて構成を工夫します。 	<ul style="list-style-type: none"> ・書道Ⅰ・Ⅱの学習を振り返ります。 ・古典や題材、構成等は各自の感性に基づくものを選択します。
5	1 2	制作への発展	<ul style="list-style-type: none"> ・それまでの臨書の学習を生かし詩文や形式を選択し、倣書の方法を身につけます。 	<ul style="list-style-type: none"> ・書体や詩文は自らの感性に基づくものを選択します。
6				
7	8			
9	8	鑑賞の学習 2 仮名の書の学習 3 漢字仮名交じりの書の学習	<ul style="list-style-type: none"> ・臨書及び創作作品について鑑賞します。 ・相互の作品を鑑賞し文章にまとめ発表します。 ・各自が選択した仮名古典の臨書を行い表現技法を身につけます。 ・それぞれの古典について字典を作成し制作の資料として活用します。 ・散らし書きを行います。 ・自由に選んだ詩文を題材に作品の制作を行ない、カレンダーに仕立てます。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えを文章で表現する力を養います。 ・日本史の学習に関連します。 ・古典や題材、構成等は各自の感性に基づくものを選択します。 ・書体や詩文は自らの感性に基づくものを選択します。 ・書体や形式は自由に選択します。
10	6			
11	8			
12	6			
1	6	4 表現の広がり	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の好きな絵や写真を選びます。 ・選んだ絵や写真にふさわしい詩や句など選択します。 ・双方をパソコンに取り込み、画像加工ソフトを用いて合成します。 	<ul style="list-style-type: none"> ・書体や詩文は自らの感性に基づくものを選択します。 ・書体や形式は自由に選択します。 ・情報の学習に関連します。
2	10			
3				

確かな学力を身に付けるためのアドバイス	<ul style="list-style-type: none"> ・書道の学習においてはまずよく見ることが大切です。自らの感性に基づき対象となる作品や古典に素直な気持ちで向かいましょう。 ・得られた感想は何に由来するものか、用具・用材、構成、また作者や時代背景といったさまざまな要素について考え分析する姿勢が大切です。 ・技法の習得にあたってはただ練習の枚数を重ねるのではなく自分が解決すべき課題や問題点を明確にしておくことが大切です。そのために「学習記録」はていねいに書きましょう。 ・創作においては感興に応じた表現を効果的に行うため、形式や詩文、用具・用材などを積極的に選択していきましょう。 ・鑑賞においては感じたことを的確に表現する自分自身の言葉を捜していきましょう。
授業を受けるにあたって守ってほしい事項	<ul style="list-style-type: none"> ・授業はチャイムと同時に始めますので、用具を準備し着席を完了させて下さい。 ・用具は個人の所有の物、学校の備品ともに大切に使いましょう。特に、筆と硯はきれいに洗いましょう。